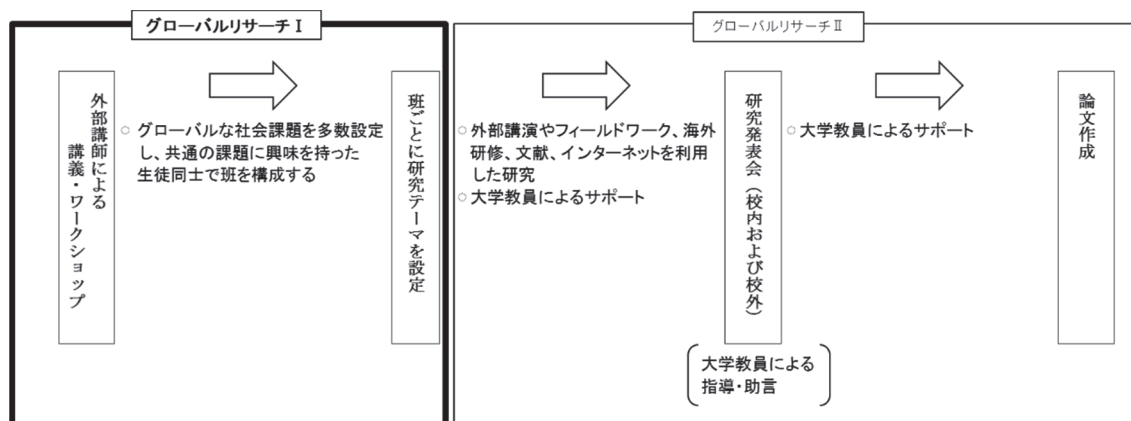


⑦ グローバルリサーチ I

科目の目標	地域におけるグローバルな社会課題を取り上げ、グループ活動を通じて、コミュニケーション能力を養いながら科学に対する関心を深め、自ら主体的に学ぶ力を育成する。また、現代社会の諸問題について、主体的に考え公正に判断する力と基礎を養い、未来の創造者として社会の在り方や生き方を考えさせる。
学習内容	(1) 外部講師による講義・ワークショップ (2) グループディスカッション・フィールドワークによる課題研究 (3) 校内・校外発表用資料作成とプレゼンテーション (4) 関係諸機関職員等との意見交換
担当教員	SGH 推進委員長、SGH 推進副委員長、創造科学科副科長、英語科、地歴公民科、ALT
対象生徒	普通科 1 年生 35 名
評価方法	授業に取り組む姿勢、研究内容、研究発表、成果物

活動の概念図



a 経緯

期 日	内 容
令和元年 6 月 13 日	授業「ガイダンス」
令和元年 6 月 17 日	講義「日本企業のベトナム進出について」 講師：ASEAN 専門家 河原光伯氏
令和元年 7 月 10 日	講義「フィリピンの現状から見る貧困の課題」 講師：アイセック大阪大学委員会 大谷望恵氏
令和元年 9 月 12 日	授業「新聞ワーク」

令和元年 11 月 5 日	講義「三ツ星ベルト(株)における地場産業の歴史と事業のグローバル展開について」 講師：三ツ星ベルト（株） 倉本信二氏
令和元年 11 月 18 日	講義「英語スピーチとプレゼンテーションの技法」 講師：神戸市外国語大学教授 野村和宏氏 ※創造科学科と合同
令和元年 12 月 12 日	講義「地域における多文化共生」 講師：多文化共生センターひょうご代表 北村広美氏
令和元年 12 月 15 日	「ワンワールドフェスティバル for Youth 2019」参加
令和元年 12 月 23 日	神戸大学ジャンモネ CoE 高校生向けミニシンポジウム 講義：「システム情報学を用いた都市生活のデザイン～バルセロナの取り組みと神戸のこれから」 講師：神戸大学大学院システム情報学研究科准教授 藤井信忠氏 講義：「ヨーロッパにおける難民問題とその解決策の検討」 講師：神戸大学国際連携推進機構特命講師 エルカン・キビリチム氏
令和 2 年 1 月 20 日	ワークショップ「研究テーマ決め」
令和 2 年 1 月・2 月	SGH 担当および教科担当による面談
令和 2 年 2 月 2 日	ワンワールドフェスティバル FW

b 授業プリント（一部抜粋）

グローバルリサーチⅠ 新聞ワーク

生徒氏名 _____ 名 _____

グローバルな社会課題やビジネス課題に関する新聞記事を渡ら、記事について以下の内容をまとめる。要旨に赤字を貼ろう。
 家庭で新聞を購読していない場合は、インターネットのニュース記事をコピーし貼り付けてください。

1 新聞情報
 新聞名： _____ 新聞（朝・夕） E時：2019年（ 1月 ）日

2 記事の見出し

3 記事の要約（2行でまとめる）

4 記事を読んだ理由

5 記事を読んだ感想

グローバルリサーチⅠ 研究テーマ設定シート

1 研究動機 … 世の中の動きやなぜ興味を持つようになったのかの経緯。

2 研究目的 … どこ（Where）のどれ（Who）にとって、どのように（How）問題となっているのかも振り返らう。次に、その問題にどう対応したいのか。

○ 解決される前のイメージ

Where : _____

Who : _____

How : _____

→

ワークショップ

○ 解決された後のイメージ

Where : _____

Who : _____

How : _____

解決のためのアイデア

3 検証方法 … 何を調べ、どのようなところに行けばよいか。
 資料・インタビュー・アンケート・調査、調べサイトをメモしよう

4 研究タイトル（仮） … このどれの課題に何をしたいのか。

5 チェック欄

2月7日まで	A	B	2月26日まで	C	D
チェック記			チェック記		

c 内容

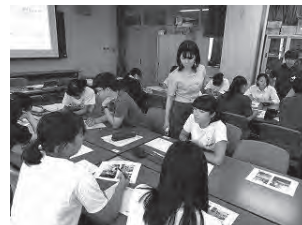
令和元年6月17日 講義「日本企業のベトナム進出について」

今年も ASEAN に関する専門家である河原光伯氏にベトナムの経済や日本との関係に関するデータを示していただき、日本企業としてベトナムでどのようなことを行えば成功するかをグループで考えた。



令和元年7月10日 講義「フィリピンの現状から見る貧困の課題」

NPO 法人であるアイセックの大阪大学委員会の大谷望萌さんにフィリピンの貧困地域の子供たちの現状を中心に、ご自身の経験を元に講義とワークショップを実施していただいた。開発途上国の貧困解消についてグループで話し合い、発表を行った。



令和元年 11 月 5 日 講義「三ツ星ベルト(株)における地場産業の歴史と事業のグローバル展開について」

本校同窓会館武陽ゆ〜かり館において、普通科グローバルリサーチ I 受講者（1 年生）35 名を対象に、三ツ星ベルト株式会社の人事部長の倉本信二氏に「地元企業の海外進出とその課題〜グローバルリーダーの資質」をテーマに講義をしていただいた。初めに三ツ星ベルトの概要と海外進出の現状についてお話をいただき、実際に三ツ星ベルトのインドネシア工場であったトラブルについて、ディスカッションした。その後、(1)「グローバル人材」とはどんな人材なのか、(2)「グローバル人材」になるためにはなにが必要かについて、グループで話し合った。各グループ発表の後に、倉本氏から補足説明をいただいた。



令和元年 12 月 12 日 講義「地域における多文化共生」

多文化共生センターひょうごの北村広美さんから「地域における多文化共生」というテーマで講義とワークショップを実施していただいた。神戸市内においても外国人住民が増えており、特に東灘区と長田区で外国人の比率が高まっている。新たな外国人労働者の受け入れが始まり、ますます増えている。今後、どのように共生していけばいいのかを考えるきっかけとなった。



令和元年 12 月 23 日 神戸大学ジャンモネ CoE 高校生向けミニシンポジウム

神戸大学医学部神緑会館多目的ホールにおいて、グローバルリサーチ I 受講生（1 年生）34 名と創造科学科 4 期生（2 年生）40 名を対象に、神戸大学神戸大学ジャンモネ CoE 主催「ジャンモネ CoE 高校生向けミニシンポジウム」が開催された。各講演の質疑応答では、生徒から様々な質問があり、たいへん貴重な機会となった。講演のタイトルと講師は以下の通りである。



「システム情報学を用いた都市生活のデザイン〜バルセロナの取り組みと神戸のこれから」

神戸大学大学院システム情報学研究科 准教授 藤井信忠氏

「ヨーロッパにおける難民問題とその解決策の検討」

神戸大学国際連携推進機構 特命講師 エルカン・キビリチム氏

令和2年2月2日 ワンワールドフェスティバル

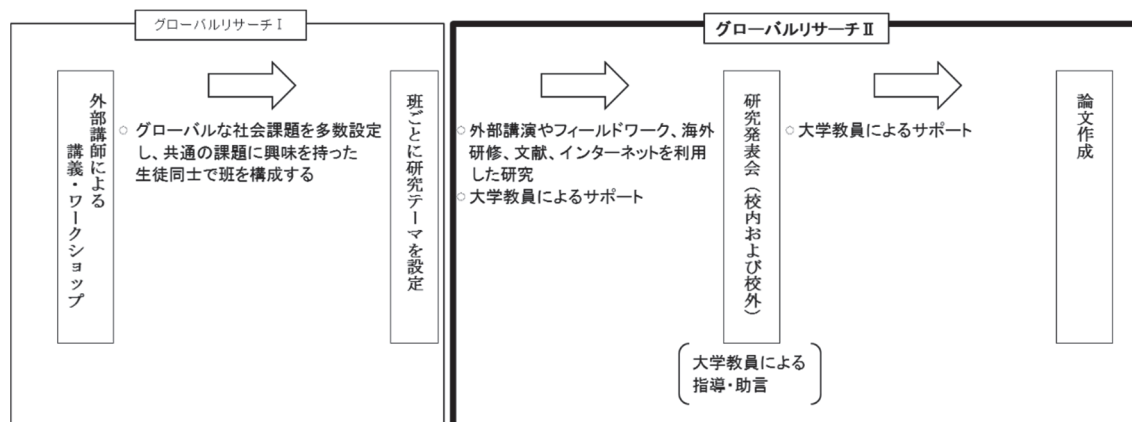
関西テレビや大阪北区民センターで開催されたワンワールドフェスティバルに普通科1年生6名が参加した。国際機関やNGO、グローバル企業の方から様々なお話を聞くことができた。これから本格的に研究を進めていく。テーマ設定に大いに役立つ1日であった。



⑧ グローバルリサーチⅡ

科目の目標	グローバルな社会課題から課題を設定し、グループ活動を通じて、コミュニケーション能力を養いながら国際問題に対する関心を深め、自ら主体的に学ぶ力を育成する。また、論文作成を通じて、課題に対して、多角的な視点をもって分析し、解決のための方策を筋道立てて考える力を育成する。
学習内容	(1) 外部講師による講義・ワークショップ (2) グループディスカッション・フィールドワークによる課題研究 (3) 校内・校外発表用資料作成とプレゼンテーション (4) 関係諸機関職員等との意見交換 (5) テーマについて個人で論文の作成（グローバルリサーチⅢに続く）
担当教員	SGH 推進委員長、SGH 推進副委員長、創造科学科副科長、英語科、地歴公民科、ALT
対象生徒	普通科第2学年 40名
評価方法	授業に取り組む姿勢、研究内容、研究発表、成果物

活動の概念図



a 経緯

期 日	内 容
平成31年4月15日	研究ガイダンス①
平成31年4月 ～令和元年5月	SGH 担当および、教科担当による面談
令和元年5月13日	研究中間報告
令和元年6月24日	ポスター発表会 講師：甲南大学サイエンスフロンティア学部准教授 甲元一也氏

令和元年 6 月 24 日	ワークショップ「わたしたちの難民問題」参加
令和元年 7 月 5 日	発表会ふりかえり
令和元年 7 月 24 日	ワークショップ「わたしたちの難民問題」参加
令和元年 8 月 21 日・22 日	オープンハイスクールにて、中学校生および保護者、教員に向けてポスター発表
令和元年 8 月 29 日	FW「丸五市場」
令和元年 9 月 4 日	研究ガイダンス②
令和元年 9 月	SGH 担当および、科目担当による面談
令和元年 9 月 27 日	研究中間報告
令和元年 10 月 25 日	FW「有機農法について」
令和元年 11 月 9 日	学校説明会にて中学生に向けて口頭発表
令和元年 11 月 12 日	口頭発表会① 講師：大阪大学大学院経済学部教授 佐々木勝氏
令和元年 11 月 19 日	口頭発表会② 講師：大阪大学高等教育・入試研究開発センター特任助教 金泓権氏
令和元年 12 月 12 日	研究ガイダンス③
令和 2 年 1 月 10 日	論文作成ガイダンス
令和 2 年 1 月 26 日	神戸ベトナム人協会 テトの集い
令和 2 年 1 月・2 月	SGH 担当および、科目担当による面談

<研究テーマ>

- 1 班 伝統工芸品の認知拡大と継承の方策について
- 2 班 外国人労働者の言語活動に着目した労働環境改善の提言
- 3 班 ベトナム・インドネシア・タイ産トリニタリオ種カカオのカカオポリフェノール含量と気候条件に関する研究
- 4 班 SNS 活用による神戸のコト消費拡大について
- 5 班 年間死者数 70 万人！？薬の効かない「薬剤耐性菌」の知名度向上の方策
- 6 班 批判的思考力を育むローテーション学習について
- 7 班 スキルテストと夜間中学活用による難民の言語学習支援
- 8 班 有機野菜の購買促進のための方策について
- 9 班 京都における観光公害削減の方策
- 10 班 パレスチナ・イスラエル問題の考察

b 授業プリント（一部抜粋）

ポスターテンプレート

The poster template is divided into several sections:

- タイトル (Title):** Located at the top right, with a small header for '兵庫県立兵庫高等学校' (Hyogo Prefectural Hyogo High School) and school information.
- 要旨 (Summary):** A box on the left for '活動目的と提案の概要を書こう' (Write the purpose of the activity and the outline of the proposal).
- 課題 (Topic):** A box on the left for '① 特設の色など、自由に考えてください。' (For special colors, etc., think freely.) and '②'.
- 先行研究とその課題 (Previous Research and its Issues):** A box on the left for '①' and '②'.
- 提案と論証 (Proposal and Evidence):** A large central box for '①' and '②'.
- まとめ (Conclusions):** A box at the bottom right for '成果と課題を書こう' (Write the results and issues).

論文テンプレート

The research paper template cover page includes:

- Header:** 兵庫県立兵庫高等学校 (Hyogo Prefectural Hyogo High School)
- Title:** 研究論文テンプレート (Research Paper Template)
- Subject/Class:** 普通科 (General Course), 兵庫ゆかり (Hyogo Connection), 兵庫コウメ (Hyogo Koume), 兵庫おほか (Hyogo Ohoka)
- Logos:** SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL and other institutional logos at the bottom.

目次	
はじめに (単発出し)	1
第1章 課題の背景と対象の絞り込み	2
第1節 ○○○○	2
第2節 ○○○○	2
第3節 ○○○○	2
第2章 先行事例研究とその課題	3
第1節 ○○○○	3
第2節 ○○○○	3
第3節 ○○○○	3
第3章 仮説と論証	4
第1節 ○○○○	4
第2節 ○○○○	4
第3節 ○○○○	4
第4章 結論 (展望と課題)	5
第1節 ○○○○	5
第2節 ○○○○	5
第3節 ○○○○	5
参考文献	6

c 内容

令和元年 6 月 24 日 ポスター発表会

甲南大学サイエンスフロンティア学部准教授の甲元一也氏をお招きし、2 年生普通科のグローバルリサーチ選択者がポスター発表を行った。すべての班が今までに研究した内容を他の生徒や先生に説明し、質問に答えた。初めての発表で慣れない面もあったが、3 回目には比較的落ち着いて発表できるようになった。最後に甲元先生からご講評をいただき、今後の研究に大いに参考になるお話をいただいた。



令和元年 8 月 21・22 日 オープンハイスクール ポスター発表

本校コモンホールにて、普通科グローバルリサーチⅡ受講生が 1 学期の研究についてポスターセッションを行った。また夏季休業中に実施したイギリス研修とベトナム研修についてポスターにまとめ、発表した。なお、この発表会は、オープンハイスクールにて来校した中学生の保護者および引率教員を対象に実施した。



令和元年 8 月 29 日 FW「丸五市場」

丸五市場において、グローバルリサーチⅡ受講生（2 年生）で観光をテーマに研究を行っている 3 名が、丸五市場事業協同組合理事長の西村正之氏から「丸五アジア横丁ナイト屋台」についてお話を伺った。このイベントが始まった経緯や込められた思いについて詳しくお話をいただいた。



令和元年 10 月 25 日 FW「有機農法について」

兵庫楽農生活センターにおいて、「オーガニック生活」に向けた提言を研究しているグローバルリサーチⅡ受講生（2 年生）2 名が、同センター楽農交流課課長補佐の柳澤吉彦氏から兵庫県における有機農法の現状と課題についてお話を伺った。



令和元年 11 月 9 日 学校説明会にて中学生に向けて口頭発表

本校講堂において、中学 2・3 年生とその保護者・中学校教員約 300 名を対象に、学校説明会が実施された。この全体説明会において、普通科グローバルリサーチⅡ受講者（2 年生）のうち 2 つの班が、グローバルサーチの紹介と自身の課題研究についての発表を行った。



発表タイトルは以下のとおりである。

「神戸のコト消費～SNS を使って外国人を呼び込む～」

「外国人労働者が働きやすい社会を目指して」

令和元年 11 月 12 日 口頭発表会①

本校同窓会館武陽ゆ～かり館において、普通科グローバルリサーチⅡ受講者（2 年生）40 名のうちの 5 つの班が、パワーポイントを使用し、自身に取り組む課題研究についての口頭発表（発表 8 分、質疑応答 2 分）を行った。今回は、大阪大学大学院経済学研究科教授の佐々木勝氏をお招きし、生徒の口頭発表に対して、アドバイスをしていただいた。今回の発表班と発表タイトルは以下のとおりである（発表順）



1 班「伝統工芸品の認知拡大と継承」

2 班「外国人労働者が働きやすい社会を目指して」

3 班「ベトナム・インドネシア・タイ産トリニタリオ種カカオのカカオポリフェノール含量と気候条件に関する研究」

4 班「神戸のコト消費～SNS を使って外国人を呼び込む～」

5 班「年間死者数 70 万人！？薬の効かない『薬剤耐性菌』」

令和元年 11 月 19 日 口頭発表会②

本校同窓会館武陽ゆ～かり館において、普通科グローバルリサーチⅡ受講者（2 年生）40 名のうちの 5 つの班が、パワーポイントを使用し、自身に取り組む課題研究についての口頭発表（発表 8 分、質疑応答 2 分）を行った。今回は、大阪大学大学高等教育・入試研究開発センター特任助教の金泓権氏をお招きし、生徒の口頭発表に対して、アドバイスをしていただいた。今回の発表班と発表タイトルは以下のとおり（発表順）

6 班「批判的思考から 考える ローテーション学習」

7 班「難民の就業支援」

8 班「オーガニックな食生活～有機野菜をもっと日常に取り入れよう～」

9 班「京都における観光公害削減の方策」

10 班「紛争を止めるために～パレスチナ・イスラエル問題を考える～」

令和2年1月26日 神戸ベトナム人教会 テトの集い

メリケンパークで開催されたテトの集いに外国人労働者に関する問題を研究している普通科2年生2名がテトの集いに参加し、その参加者にインタビューした。多くの参加者に驚くとともに、様々な背景を持った多くの職種の方にお話を聞くことができ、研究を進めるのに有意義なフィールドワークとなった。



兵庫県立兵庫高等学校
グローバル男子II 2班

外国人労働者が働きやすい社会を目指して

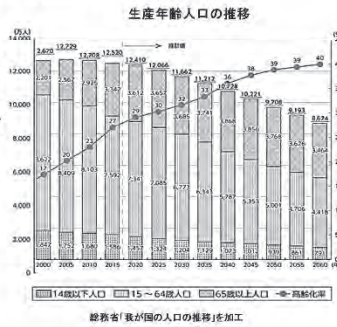
研究動機

日本国内の労働人口が減少し、高齢化が急速に進む中、2019年4月に入管法の改正案が施行された。減っていく日本の労働人口を補うために増加していく外国人労働者とそれを取り巻く様々な問題に対して、私たちにできることはないかと考えたから。

受け入れの課題

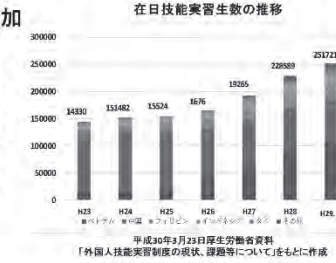
①日本の生産年齢人口の現状

日本は少子高齢化により、生産年齢人口は年々減少し高齢化率は上昇している。これは今後も進んでいくことが予想されている。特に、介護など人と関わる分野での減少が著しい。



②外国人労働者の増加

日本に働きにくる技能実習生などの外国人労働者の数は、年々増加傾向にある。入管法の改正により、これからも増加していくことが予想される。近年は、ベトナムからの外国人労働者が急増している。



日本で技能実習の経験があるベトナム人への聞き取り

ベトナムで勤務するバスガイド（自動車製造業に勤務したことがある40代男性）

- ・ベトナムから日本への送り出し機関は今は多数あり、値段も高くなってきている
- ・逆に3～4時間の残業がある企業でしか働きたい
⇒3年という時間が限られているからできるだけ多くお金を稼ぎたい
- ・工場長しかそもそも日本人がいなかったから、日本人と関わるのは仕事の時ではなく、生活の時が多い

日本で勤務する通訳（神戸市で働いている高度技能実習生20代男性）

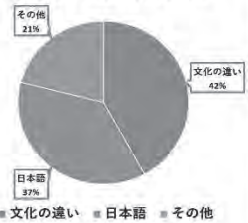
- ・日本語を使う場面が多い
- ・まともに働いたのにお金がもらえない
- ・金銭的ないじめを受けた
- ・ベトナムは週一でしか学校に通えず字が読める程度でやめてしまう



調査・インタビュー結果のまとめ

右のグラフは、ベトナムでの海外研修の際訪問したJVS（JVS Group Joint Stock Company）で10代男女30名へ行ったアンケートの結果である。

日本で働くうえで不安なこと



仮説

- ・労働時間や環境などに不安がある

結果

- ・身近な生活に関することや友人関係などに不安がある

日常生活でコミュニケーションをとるのが難しいなあ
日本人の独特な言い回しがわからないなあ

そこで、日本で暮らす生活者としての視点を考えた支援に目を向ける必要がある。企業で起きるさまざまなトラブルでストレスをためている外国人労働者に対して、周囲の地域住民が少しでも住みやすい「暮らし」をサポートできるようにするべきである。



外国人労働者に対して、公的機関がサポートするだけでなく、地域住民もサポートに加わることで、外国人労働者と地域住民の親交を深め、生活における外国人労働者のストレスを軽減できると考える。

論証

「第2次多文化共生推進プラン」～多様な市民による持続可能なまちづくり～（広島県安芸高田市）

- 子どもたちの学習支援
 - ⇒市内小中学校を対象とした多文化共生授業の開催や、外国にルーツがある子どもたちへの母語教育支援事業
 - 日本語教室の充実
 - ⇒多様な日本語学習支援体制の確立、日本語学習支援者養成講座の開催
 - 多言語学習機会の充実
 - ⇒多様な市民が理解しやすい「やさしい日本語」学習などに取り組んでいる
- 安芸高田市以外にも内容は異なるが、浜松市など、さまざまな市町村で「生活者としての外国人労働者」を支援する取り組みが行われている。

まとめ

地域社会の一員として、同じ地域に暮らす外国人労働者の方々に支援できることはたくさんある。日本での仕事も生活も、すべての経験が彼らの学びとなるような外国人労働者が暮らしやすい、地域社会が日本各地で見られる提案を今後も考えていきたい。

参考文献

総務省「我が国の人口の推移」
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h28/image/n1101010.png>
 平成30年3月23日厚生労働省資料「外国人技能実習制度の現状、課題等について」
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/fiber/ginoujishshukyougikai/180323/3_miliv-genjyokudai.pdf
 Global HR Magazine「そもそも技能実習制度ってどんな制度？どんな職種に従事可能な？」
<https://global-hr.lift-group.co.jp/39cdn-ak.f.sj-halena.co>
 平成30年3月安芸高田市資料「第2次安芸高田市多文化共生推進プラン」
https://www.akitakata.jp/akitakata-media/filer_public/6d/d3/6dd364f5-19c6-4a31-8470-bbe4d20b9a82/dai-2tsugi-aki-takadashi-ta-bunka-kyousei-suishin-puran.pdf

⑨ グローバルリサーチⅢ

科目の目標	現代社会が直面するグローバルな諸課題について様々な視点から考察し、主体的な探究活動を通して課題解決のための方策を考え、問題解決能力を養う。
学習内容	国際社会の諸課題について、課題研究に取り組み、グローバル社会における国際社会のあり方を考える。研究内容を論文にまとめ、発表を行う。
担当教員	SGH 推進委員長、SGH 推進副委員長、創造科学科副科長、英語科、地歴公民科、ALT
対象生徒	普通科第3学年（33名）
評価方法	研究論文、研究発表、授業に取り組む姿勢

a 経緯

平成31年4月10日	論文作成ガイダンス、アブストラクト作成
平成31年4月22日	生徒間査読
平成31年4月 ～令和元年6月	SGH 担当および、教科担当による面談
令和元年5月20日	研究報告書の作成
令和元年6月17日	活動報告書の作成
令和元年7月12日	論文最終版の提出

論文タイトル

班	大テーマ	論文タイトル
1	企業の海外戦略	〈班〉「東南アジアへの事業拡大～技能実習既卒者の活用～」 〈個〉「本企業の海外進出の際のコミュニケーション能力の向上について」
2	多文化共生	〈班〉「外国人移住者が地域活動に参加することによって生まれる地域の一員としての意識」 〈個〉「多文化交流活動から考える活動内容と活動情報拡散への課題」
3	植物の機能性評価	〈班〉「香味野菜における抗炎症作用の日越比較」
4	観光	〈班〉「神戸への外国人観光客増加のための提案～灘の酒蔵を世界に発信～」

5	薬剤耐性菌	〈班〉「下水道整備と AMR の相関関係について」 〈班〉「アニマルウェルフェアの観点による薬剤耐性の予防」 〈個〉「畜産における抗生剤の使用とその代替について」
6	教育	〈班〉「保護者の教育意識の向上～ペルー農村部をフィールドに～」
7	難民	〈班〉「難民への言語支援～高齢者とテレビ電話を活用した日本語支援の提案～」
8	フェアトレード	〈個〉「大企業によるフェアトレード販売促進」 〈個〉「フェアトレード商品と消費者のニーズとのずれ解消の考察」 〈個〉「フェアトレードの市場規模とブランド化」

※ 〈班〉は複数名で、〈個〉は個人で論文を作成した

b 授業プリント（一部抜粋）

論文チェックシート

論文タイトル「 _____ 」名前（ _____ ）
 チェック者 生徒番号（ _____ ） 名前（ _____ ）

チェック内容		✓欄
1 図と表		
1	すべての図・表は中央位置にある。(左揃えになっていない。)	
2	すべての図・表は二つ以上並んでいない。(同じ高さに二つ並んでいない。)	
1-1 図		
1	すべての図のすぐ下の行に、“図1 ○○○”というような図のタイトルがある。	
2	すべての図のタイトルは“中央揃え”になっている。	
3	すべての図のタイトルは簡潔である(できれば1行以内)。	
4	図のタイトルの下に図の詳細な説明がある場合、“両端揃え”になっている。	
5	図の通し番号は図が出てきた順番になっている。(同じ番号や数字の逆転はない。)	
6	すべての図は見やすい大きさになっている。(図の中の文字が読める。)	
7	参考文献から引用してきた図の場合、図のタイトルの次の行に、出典が(簡単に)記入されている。 さらに、参考文献番号 [(数字)] が記入されている。 例) (出典:兵庫県立兵庫高等学校ホームページ [8])	
8	すべての図について、図と前後の本文の間に1行分の改行がある。	
1-2 表		
1	すべての表のすぐ上の行に、“表1 ○○○”というような表のタイトルがある。	
2	すべての表のタイトルは“中央揃え”になっている。	
3	すべての表のタイトルは簡潔である(できれば1行以内)。	
4	表のタイトルの上下に表の詳細な説明がある場合、“両端揃え”になっている。	
5	表の通し番号は表が出てきた順番になっている。(同じ番号や数字の逆転はない。)	
6	すべての表は見やすい大きさになっている。(表の中の文字が読める。)	
7	参考文献から引用してきた表の場合、表の下の行に、出典が(簡単に)記入されている。さらに、参考文献番号 [(数字)] が記入されている。 例) (出典:兵庫ゆかり 著『ゆかりちゃんのすべて』(p.26) [8])	
8	すべての表について、表と前後の本文の間に1行分の改行がある。	
2-1 参考文献の番号		
1	すべての文章・図・表において、参考文献の番号 [(数字)] は文献として出現した順番になっている。	
2	すべての文章・図・表において、同じ文献であるのに異なる番号で二回以上出てきていない。	
3	本文中の参考文献の番号と、参考文献一覧に記載されている文献番号・文献の内容が一致している。	



研究報告書

1. 課題研究のテーマ（題名）を記入してください。（40字まで）

2. このテーマを選んだのはなぜですか。（100字まで）

3. この課題研究の概要（目的と仮説、研究方法、成果）について簡潔に述べてください。（300字まで）

4. この課題研究は以下のどれに該当しますか。

- 私を含む5人以上のグループで行った。 私を含む2～4人のグループで行った。
 単独で行った。

5. この課題研究を行った期間はどのくらいですか。成果をまとめるために要した期間も含めてください。

- 2年以上 1年以上2年未満 6か月以上1年未満
 3ヶ月以上6か月未満 3ヶ月未満

6. この課題研究に関して、補足があれば自由に述べてください。参加した発表会、授与された賞、グループ研究におけるあなたの役割、感想などを記載できます。（300字まで）

7. この課題研究について、指導された方の名前を書いてください。指導教員が在籍校の先生でない場合は、その方の所属も記載してください。

大阪大学経済学部教授 佐々木勝氏、龍谷大学経済学部講師 川元康一氏、

生徒番号 _____ 名前 _____

⑩ 未来創造シンポジウム

本校講堂において、創造科学科とグローバルリサーチを受講している普通科の生徒、県内の中学生、保護者、全国の学校関係者、一般の方を対象に、「“未来の創造者”に必要な資質とは」をテーマに、第9回未来創造シンポジウムを開催した。まず、創造科学科2期生（3年生）、創造科学科3期生（2年生）、普通科グローバルリサーチⅢ受講生（3年生）が、来場された方々に向けて、これまでの研究についてポスターセッションを行った。

続いて、下記の要項でプログラムを進めた。

- 1 開会挨拶 学校長 升川清則
- 2 基調講演「“未来の創造者”に必要な資質とは」 大阪大学名誉教授 下田正氏
- 3 学校設定教科「創造」の取り組み（生徒発表）
 - ① グローバルリサーチ「灘の酒蔵インバウンド計画」普通科グローバルリサーチⅢ受講生（3年生）
 - ② 創造基礎（社会科学分野）「源平歴史街道ツアー」創造科学科3期生（2年生）
 - ③ 課題研究（自然科学分野）「アリの足のはたらきの考察」創造科学科3期生（2年生）
 - ④ 創造応用ⅠL（社会科学分野）「日本で電気自動車を普及させるためには」
創造科学科2期生（3年生）＊英語による個人発表
 - ⑤ 創造応用ⅠS（自然科学分野）「p'のない世界～動き出したら止まらない～」
創造科学科2期生（3年生）
- 3 パネルディスカッション「“未来の創造者”に必要な資質とは」
司会：創造科学科2期生（3年生）
パネラー：大阪大学名誉教授 下田正氏、創造科学科2期生（3年生）2名、創造科学科3期生（2年生）2名、創造科学科4期生（1年生）2名
- 4 閉会挨拶 創造科学科長 大澤 哲

生徒のほかに、150名を超える方々に参加していただいた。



(2) 校外における研究成果の発表および実践活動等（成果普及活動を含む）

a 経緯

期 日	内 容	対象者
平成 31 年 4 月 13 日	大阪大学国際公共政策コンファレンス	創造科学科 2 期生
令和元年 7 月 25 日 26 日	関西学院大学「高校生国際交流の集い 2019」	創造科学科 3 期生 創造科学科 4 期生
令和元年 7 月 29 日 30 日	高校生ボランティア・アワード 2019	創造科学科 3 期生
令和元年 8 月 1 日	大阪大学「AI と人がつくる未来社会」	創造科学科 2 期生
令和元年 9 月 15 日	神戸ベトナム人会お月見会	創造科学科 4 期生
令和元年 10 月 26 日	よーせてシンチャオ	創造科学科 4 期生
令和元年 11 月 16 日	関西学院大学総合政策学部 リサーチ・フェア 2019	創造科学科 4 期生
令和元年 11 月 16 日	兵庫県国際交流協会民間国際交流事業助成事業「上映会&梶岡潤一監督講演会」ボランティア参加	創造科学科 4 期生
令和元年 11 月 16 日 17 日	第 13 回全日本高校模擬国連大会	創造科学科 4 期生
令和元年 12 月 11 日	私たちの難民問題	創造科学科 4 期生 グローバルリサーチ I
令和元年 12 月 15 日	ワンワールドフェスティバル for Youth 2019	創造科学科 3 期生 創造科学科 4 期生 グローバルリサーチ I グローバルリサーチ II
令和元年 12 月 18 日	私たちの難民問題	創造科学科 4 期生 グローバルリサーチ I
令和元年 12 月 23 日	神戸大学ジャンモネ CoE ミニシンポジウム	創造科学科 4 期生 グローバルリサーチ I
令和 2 年 1 月 26 日	第 12 回サイエンスフェア	創造科学科 3 期生 創造科学科 4 期生
令和 2 年 2 月 11 日	第 7 回高校生国際問題を考える日	創造科学科 3 期生 創造科学科 4 期生 グローバルリサーチ II

b 内容

平成 31 年 4 月 13 日 大阪大学国際公共政策コンファレンス

大阪大学豊中キャンパスで実施された、国際公共政策コンファレンス（待兼山会議）に創造科学科 2 期生（3 年生）が参加し、「タックス・アムネ스티を用いた新たなグローバル・タックスの提案」というテーマで口頭発表を行った。20 分間の発表を行い、その後約 20 分間、大学の先生からの質問に答えた。専門家の方に疑問点を指摘していただき、それに答えることができた。研究の不十分な部分があり、最終的に研究論文を書き直すことになった。貴重な経験を活かし、今後の活動につなげていきたい。



令和元年 7 月 25・26 日 関西学院大学「高校生国際交流の集い 2019」

関西学院大学において、創造科学科 3 期生（2 年生）1 名、創造科学科 4 期生（1 年生）4 名、普通科 1 年生 2 名の計 7 名が、1 泊 2 日で開催された高校生国際交流の集いに参加した。内容は関西学院大学の大学生と日本の高校生、留学生と一緒にレクリエーションを行い、社会課題についてグループに分かれてディスカッションを行った。最後には社会課題の解決策を英語で発表した。活動を通して、英語を表現する難しさや大切さを実感した。



令和元年 7 月 29・30 日 高校生ボランティア・アワード 2019

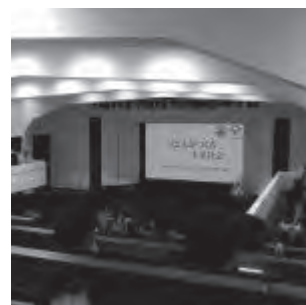
創造科学科 3 期生（2 年生）が「高校生ボランティア・アワード 2019」に応募し、全国大会で発表できる 96 校の中に選ばれた。その発表会が 7 月 29 日、30 日の 2 日間、パシフィコ横浜で開催された。創造科学科 3 期生（2 年生）の 2 名が、昨年「創造基礎 B」で取り組んだ授業内容と地域貢献活動（長田区における課題研究）の発表を行った。ももいろクローバーZ やテツ and トモ、chay さんも発表ブースに来ていただいた。参加者全員で合唱したり、「命」をテーマにパネルディスカッションを行ったり、盛りだくさんの内容だった。たくさん有名人や世界で活躍されている方々との出会いがあり、充実した時間を過ごすことができた。



令和元年 8 月 1 日 大阪大学「AI と人がつくる未来社会」

創造科学科 3 期生（2 年生）3 名が大阪大学で開催されたシンポジウムに参加した。大阪大学や東京大学の著名な研究者の方々による AI やヒトの脳に関する講義や討論があった。

AIに関する研究やAIが社会に及ぼす光と影について、詳しく学ぶことができた。生徒たちは今回の学びを活かし、「ヒトと機械が共生し、共創する社会の実現」をめざして都市工学分野の研究を進めていく。



令和元年 9月 15日 神戸ベトナム人会お月見会

創造科学科4期生(1年生)の2名が神戸ベトナム人会主催のお月見会に参加した。日本の月見団子をベトナム人の子供や保護者に説明しながら配り、交流を行った。長田のまちにベトナム人の方々が年々増えており、小さな子供たちの参加も増えている。長田のまちやベトナム人の方々が抱える課題について考えるきっかけとなった。



令和元年 10月 26日 よーせてシンチャオ

創造科学科4期生(1年生)1班の2名が長田区社会福祉協議会が主催する「よーせて!シンチャオ」にボランティアスタッフの一員として神戸ベトナム人会の方と一緒にベトナム料理の揚げ春巻きを作り、子供たちに提供した。地域住民の方々と交流を目的としたイベントに参加し、今後の研究のありかたについて考えることができた。



令和元年 11月 16日 関西学院大学総合政策学部リサーチ・フェア 2019

関西学院大学三田キャンパスにおいて、創造科学科4期生(1年生)社会科学分野2班の3名が、同大学総合政策学部主催「リサーチ・フェア 2019」に参加し、大学生や大学院生とともに研究の成果を発表した。発表会后、関西学院大学総合政策学部の卒業生でコンサルタント会社の人事担当や市議員の方々から大学の学びや就職、仕事についてお話を伺うことができた。



発表タイトル:「長田区をアートで活性化～本町筋商店街におけるランタンづくりワークショップ～」

令和元年 11月 16・17日 第13回全日本高校模擬国連大会

東京ビッグサイトタイム 24ビル 13階において、第13回全日本高校模擬国連大会が開催され、本校創造科学科4期生(1年生)の2名が参加した。本大会は、全国各地から集まった高校生が各校2人1組となり、実際の国連での会議をイメージしながら、各国の大使として熱い議論を交わすというもので、本校は3年連続の出場となった。会議において本

校生徒はポーランド大使を務めた。今回の会議は第 75 会期国連総会社会・人道・文化委員会（第三委員会）の「死刑執行の一時停止（モラトリアム）“Moratorium on the use of the death penalty”」を議題とし、①死刑に関する人権の範囲、②①の範囲においてどのような死刑モラトリアム・死刑の制限を求めるのかという 2 つの論点についての話し合いが行われた。議場では、似た考えを持つ国同士で集まり、グループ毎に成果文書を残すべく活発な交渉が交わされた。本校生はスピーチをこなし、積極的に色々なグループと意見交換をし、決議に自分達が考えた文言を残すという成果もあげた。



令和元年 12 月 15 日 ワンワールドフェスティバル for Youth 2019

大阪 YMCA において、普通科グローバルリサーチ I（1 年生）20 名、創造科学科 4 期生（1 年生）9 名、普通科グローバルリサーチ II（2 年生）2 名、創造科学科 3 期生（2 年生）17 名が関西 NGO 協議会主催「ワンワールドフェスティバル for Youth 2019」に参加した。1 年生はボランティアスタッフや高校生レポーターとしてイベントに参加した。2 年生は普通科生徒 1 名が実行委員会に選出されて企画運営に携わり、それ以外の生徒はブースにおいて授業や研究の紹介を行い、海外研修参加者は報告会にて発表を行った。



令和元年 12 月 23 日 神戸大学ジャンモネ CoE ミニシンポジウム

神戸大学医学部神緑会館多目的ホールにおいて、普通科グローバルリサーチ I（1 年生）34 名と創造科学科 4 期生（2 年生）40 名を対象に、神戸大学ジャンモネ CoE 主催「神戸大学ジャンモネ CoE 高校生向けミニシンポジウム」が開催されました。各講演の質疑応答では、生徒から様々な質問があり、たいへん貴重な機会となった。



講師と講演のタイトルは以下のとおりである。

「システム情報学を用いた都市生活のデザイン～バルセロナの取り組みと神戸のこれから」

神戸大学大学院システム情報学研究科 准教授 藤井信忠氏

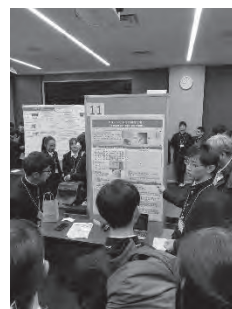
「ヨーロッパにおける難民問題とその解決策の検討」

神戸大学国際連携推進機構 特命講師 エルカン・キビリチム氏

令和 2 年 1 月 26 日 第 12 回サイエンスフェア

甲南大学ポートアイランドキャンパス、ニチイ学館ポートアイランドセンターにおいて、第 12 回サイエンスフェア in 兵庫が開催され、本校創造科学科 3 期生（2 年生）の理系選

択者 21 名が発表者として、創造科学科 4 期生の理系選択者 26 名が来年を見据えた見学者として参加した。サイエンスフェア in 兵庫とは、兵庫県内において自然科学の研究活動を実践している学校が一同に集い、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）校を中心に企画された大型イベントである。9 月から実践してきた探究活動の内容を主体的にプレゼンテーションし、多くの高校生をはじめ、高校や大学の先生、さらには専門家からいろいろな指摘やアドバイスをいただき、改めて自分たちで進めてきた研究について振り返ることができた。他校の研究から学ぶべき点も多く、同じ県内の高校生が内容の深い研究を知り、互いに議論する姿も見られた。1 年生は来年発表者として参加するイメージをつかみ、先輩の発表に刺激を受けた。また、多くの企業や大学のプレゼンテーションもあり、いろいろな世代で交流を深めながら、自然科学の研究を楽しく味わうことができ、非常に有意義な 1 日になった。



<本校生の発表テーマ>

(物理班) 太陽光パネルでより多くの電力をえるために

(化学班) 泥を用いたゼロ円燃料電池の開発

(生物班) グリーンヒドラの細胞内共生

(数学班) 「You tube でバズれ！」

「寝てしまいやすい電車はどこか」

「どうして会話は弾むのか」

(都市工学班) 外国人にとっての日本らしさとは ～店の外観から考える～

令和 2 年 2 月 11 日 第 7 回高校生国際問題を考える日

神戸ファッションマートで実施された第 7 回高校生国際問題を考える日に創造科学科 3 期生、4 期生（2 年生、1 年生）文系選択者、グローバルリサーチⅡ選択者が参加した。午前中は東京オリンピック、パラリンピックに関する基調講演とパネルディスカッションがあった。創造科学科 3 期生 7 名とグローバルリサーチⅡ選択者の 6 名は午後からポスターセッションを行った。その中の 1 名は県教委が主催するポスター発表コンクールで発表者に出され、審査員の前で発表した。

※「高校生国際問題を考える日」について

第 7 回となる「高校生国際問題を考える日」は兵庫高等学校が幹事校となり連携先の大阪大学、WHO 神戸センター（平成 28 年度より）、兵庫県教育委員会が主催で実施されている。

本校 SGH 担当者が連携先とともに実施内容の企画立案を行った。今年度は SGH 事業の成果を普及するため、従来の教員向けランチョンセミナーに加え、新たにポスター発表コンクールを実施し、SGH 指定校を中心に生徒が発表を行い、審査を受けた。最優秀ポスターの発表をすべての参加者の前で行い、探究学習のモデルを示すことができた。参加者は生徒 541 名、教員 73 名、ポスター発表 121 件と過去大規模なものとなった。